

# 令和5年度 学校評価

## 1. 学校評価概要 最終評価

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

評価項目	自己評価	学校間評価	学校関係者評価
I. 教育理念・目標 (小項目5項目)	評価 4.0	評価 4.0	評価 4.0
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚労省の「カリキュラムの考え方」・関東信越G「2022 共通カリキュラム」と前年度作成したシラバス・実習要綱に大きな乖離があった。そのため4月に大幅に変更した。</li> <li>・カリキュラム改正に伴い実習施設、実習時期を大幅に変更した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラム対応学年は一学年であったが、教育目標・内容・方法の検討を繰り返し、学生のための指導体制整備に取り組んでいる。</li> </ul>	
II. 学校運営 (小項目8項目)	評価 3.6	評価 3.8	評価 3.6
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 共通カリキュラムに沿って教科外活動を全て再開した。</li> <li>・4月から全て対面授業、臨地での実習にした。</li> <li>・保護者や地域住民、同窓生への情報のためHPを年16回/年(前年度5回/年)更新した。また母体病院の広報誌に年4回、教育活動を掲載した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5類移行前から講義形態や実習方法の変更が求められていたができていない。4月から社会情勢に合わせて、学校運営を行っている。学生にとって効果的な教育であった。</li> <li>・HP更新は年16回している。昨年度比3倍に伸びていることは評価できる。</li> </ul>	
III. 教育活動 (小項目16項目)	評価 3.9	評価 4.0	評価 3.9
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧カリキュラムでの統合実習では、内定施設にできる限り学生を配置した。また夜間実習を再開し、1施設は21時まで、2施設は22時までの夜間実習、5時30分からの早朝実習を行った。実習目的が達成した。</li> <li>・感染により出席停止となった学生に対しては、別日に臨地で実習を行い、学習を保障した。</li> <li>・教員全員が看護診断の研修会上級コースまで受講した。</li> <li>・教員の研究の質向上のため、研究日の確保、研究助成金の適正使用、管理者からの助言、大学教授への指導依頼を行った。その結果今年度、2学会に5名が研究を発表した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人看護学実習・老年看護学実習を1~4クール内に修得する。教育効果を考えた科目順序性となっている点が評価できる。</li> <li>・統合実習では、就職先への配置、夜勤実習、早朝実習を組み入れており、新人看護師のリアリティーショック対策となっている。</li> <li>・NANDA - I への変更に伴い教員全員が同じ研修を受講し統一した指導ができています。指導者会議で学習会を開催し、学内での学習と臨床実践につながりをもたせて学習できている。</li> </ul>	
IV. 学修成果 (小項目5項目)	評価 3.4	評価 3.4	評価 3.6
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生75名、県内就職率85.3%、NHO就職率77.3%であった。進学者2名、進路未定者は3名である。</li> <li>・外部講師に依頼し国家試験対策講座を行った。有料模擬試験を7回実施した。模擬試験結果をもとに成績下位の者に登校を促し個別指導を行った。</li> <li>・学習低迷者や体調に不安のある者、学習環境が整わない学生に対して担当がきめ細やかに対応、学生や保護者を交えて面談を行ったため令和5年度は休学者・退学者はいなかった。</li> <li>・既卒生に対しては実習病院で声をかけ支援している。6月にホッピングデイを対面で実施し、12名が参加した。</li> <li>・卒業生の卒後の活躍・評価は創立50周年時に実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得率向上に向けて、試験対策のみならず、実習科目の順序性や感染対策による実習制限に対する実習補償など、効果的・体系的に組まれている。</li> <li>・過去4年間の退学率は2.4%~4.1%であるが本年度は0%である。学生や保護者との面接が効果的であった。</li> </ul>	
V. 学生支援 (小項目10項目)	評価 3.8	評価 4.0	評価 3.9
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学費の支払いに対し柔軟に対応した。</li> <li>・定期健康診断、国家試験に必要な健康診断、診断書の作成等は健康医の協力を得て母体病院で実施した。</li> <li>・図書室、実習室、情報科学室、体育館が常時使用できるよう開放した。国家試験直前は学習に集中できるよう個室を自由に使用できるように整備した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対応は、丁寧かつ十分な個別対応がなされている。クラス単位での保護者会(対面式やオンライン)を開催すると、保護者の更なる安心また連携につながる。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験前の成績に関する事、卒業に要する単位認定に関する事などを家族に電話で説明し、状況に応じ対面で面談した。</li> <li>・卒業式を5年ぶりに保護者同席で実施し、約90名が参加した。謝恩会の会場や服装は学生に委ねた。講師、実習指導者を招待し体育館で実施した。</li> <li>・職業実践専門課程制度を導入し、ワークに必要な書類を提出している。既卒者は各学年2割程度(69期16名(職業訓練給付対象3名)、70期23名(職業訓練給付対象11名))である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業実践専門課程制度が整っており、社会人学生にとって教育支援体制を整えている。</li> </ul>	
VI. 教育環境 (小項目3項目)	評価 3.7	評価 3.7	評価 3.7
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練は、消防職員立会いの下、避難訓練や防火設備の説明、体験を行った。</li> <li>・学生への緊急時連絡方法は、メールが定着している。災害時の状況把握はGoogleフォームを活用している。1月の災害をきっかけに職員間の安否確認方法を確立した。</li> <li>・災害時マニュアル、アクションカードが存在しているが見直しがされていないため現状に即していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特記事項なし</li> </ul>	
VII. 学生の受け入れ募集 (小項目3項目) ※学納金は妥当なものとなっているか	評価 3.0	評価 3.0	評価 3.0
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中に使用するマスクや手指消毒剤は学生負担であったが、今年度から7感染対策のため徴収した年2万円の実習費を活用し学校が提供することに変更した。</li> <li>・「2022 共通カリキュラム」の教育内容にあわせて実習施設を大幅に増やした。そのため実習にかかる費用が約5倍増加したが実習費はあげていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特記事項なし</li> </ul>	
VIII. 財務 (小項目4項目)	評価 3.5	評価 3.5	評価 3.5
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経費削減対策、節電を行い、電気・ガス料金ともに大幅に削減できた。電気代は340万円削減できた。</li> <li>・県内就職率85.3%、千葉県補助金が確保できた。</li> <li>・図書検索システムの見直しを行い、母体病院と共同で使用できるものは契約を中止した。年間購読雑誌も見直した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉校に向けて、学生に影響のない範囲で工夫を行い、削減ができています。</li> </ul>	
IX. 法令等の遵守 (小項目5項目)	評価 4.0	評価 3.8	評価 4.0
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習開始前に学生に個人情報保護について指導し、誓約書を記入した。</li> <li>・終了した実習の記録の保管を教員室に変更した。学生がいつでも学習のため閲覧できるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特記事項なし</li> </ul>	
X. 社会貢献 ・地域貢献 (小項目3項目)	評価 4.0	評価 4.0	評価 4.0
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の日に自治会の地域奉仕活動で、近隣のゴミ拾い、草取りを行った。また近隣のイベントに教員が参加した。地域の自治会長と連絡を取り、地域貢献が行えた。</li> <li>・図書室や体育館の職員への貸し出しを再開した。体育館は医師が1名利用、図書室は千葉県内NHO4施設の職員延べ90名が利用した。</li> <li>・看護の日では、ペットボトルキャップ収集後ワゴン支援活動へ寄付できるよう支援を行った。11月には学校祭を開催し、バザーの運営を支援した。学生がその収益を日本赤十字社へ寄付できるようボランティア活動を支援した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特記事項なし</li> </ul>	

## 2. 学校関係者評価会議総評（最終評価）

### 1. 教育内容の質の向上

カリキュラムの修正をしながら講義や実習を遂行されたことは、効果的な教育を提供するために重要と考えます。その中で、研究授業を実施し、教員の能力向上に取り組んだことは素晴らしいと思います。教員の負担が大きかったと推察されますが、教員の専門知識を洗練させ、学生たちにより深い理解を促す機会になったと思います。そして、covid-19 の5類感染症移行後の実習においては、実習目的が到達できるように実習施設を開拓し、臨地実習での実践と学内のリフレクションを取り入れ、看護実践力向上のために積極的に対応されていました。さらに、看護技術到達度表の検討を行い、教育内容の質の向上に努めたことは今年度の目標以上の成果でした。

### 2. 教員の教育力・管理能力の向上

定期的に他校と研究授業や学習会を実施し、教員の能力向上につながる取り組みができていました。また、教員養成講習会や実習指導者講習会への協力、研究活動やその成果を学会発表したことは、自身の成長や専門知識を示す重要な機会ですので、引き続き努めるようお願いいたします。教員の管理能力向上のためのミーティングにつきましては、効率的なスケジュール管理の観点から重要な場ですので、1回/週～月の間隔でも実施できると分担された業務の進捗状況が確認でき、管理能力の向上に重要なため再開をご検討ください。

### 3. 学生支援の強化

就職試験に向け小論文の課題に早くから取り組み、キャリアサポートの強化に寄与したことは、県内就職率やNH0就職率の向上につながったと思います。また、国立病院機構関信グループ内6校合同で行う第17回学生フォーラムの当番校として、オリジナルの企画を提示してフォーラムを遂行できたことは、学生と教員ともに貴重な価値のある経験になったと思います。R7年度は3年生の一学年となりますが、引き続き学生間の交流の支援をお願いいたします。

### 4. 学校経営基盤の安定化

学校経営安定のために、高額となる教材・教具を計画的に整備していくこと、また、経費削減に向けて図書購入の見直しや節電について具体的に取り組む内容を挙げて取り組まれていました。引き続き経費削減に向け努力をお願いします。

### 5. いきいき働ける職場づくりの推進

R5年度はカリキュラムの修正をしながら講義や実習を遂行されたことは、教員の負担が大きかったと推察されます。しかし、会議を減らし朝のミーティングを行い全教員が業務内容を確認できるように実行したことは業務課題を明確にし、業務負担の修正を行い、職場風土にもよい影響をもたらしたのではないかと思います。ミーティングにつきましては、1回/週～月などの間隔でも実施できるようにお願いします。